

【大槻晃久氏（国立極地研究所）】

（講演題名）

日本国内の極地・オホーツク海の観測

（賞論文題名）

Absorption of atmospheric CO₂ and its transport to the intermediate layer in the Okhotsk Sea.

（講演要旨）

日本周辺で唯一、冬季に海水に覆われるオホーツク海は、密度の大きい中層水が沿岸で形成され、海水に依存する生態系が存在するなど、規模は小さいながらも、南極海や北極海と同様の特徴を持つ極地の海である。講演では、賞をいただいた論文の内容である高密度水形成によりオホーツク海中層へと運ばれる二酸化炭素の話題を中心に、国内では珍しい砕氷船を使った観測のようすや、オホーツク海の魅力について紹介したい。